

第337回山口西田読書会（2023年10月07日開催分）の Protokol

楯谷智子

1. テキスト：「場所」「五」の第1段落276頁11行目から同段落278頁4行目まで

2. キーワードないしキーセンテンス

「矛盾的統一の対象にまで行き詰った時、判断的知識の立場からしては、もはやそれと他とを更に包含する一般者を見ることはできない」（278, 1-2）

3. 考察及び問い

基礎医学研究の恩師の「研究とは靄の中を進むようなものだが、いろいろもがいていると一瞬靄が晴れるような瞬間がある」という言葉を思い出しました。私達の知識世界は靄の立ち込めたフロンティアに取り囲まれています、それが「矛盾的統一の対象」ではないでしょうか。知識世界の拡大活動が続ける＝矛盾的統一の対象にまで行き詰り続ける、ということになり、靄が晴れる瞬間は探究者の気づきとして訪れるのでは、と考えました。（200字）